県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.86
2018年
8.9月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000(代表)　ＴＥＬ：079-497-7011(地域医療連携部直通)　ＦＡＸ：079-438-3756(地域医療連携部直通)

もくじ

- 「ドクターヘリ見学会」を実施しました …… 1
- 脊椎外科センター …… 2
- 糖尿病・内分泌内科 …… 3
- 消化器外科 …… 4
- 脳神経外科 …… 5
- 放射線科 …… 6
- 栄養管理部 …… 7
- 外来診療表 …… 8

「ドクターヘリ見学会」を実施しました

当院で初めてとなる「ドクターヘリ見学会」を、平成 30 年８月５日（日）に実施し、抽選で選ばれた約 120 人の方々にご参加いただきました。

この見学会は、知名度の高いドクターヘリの見学を通じて、救急医療の実態や重要性について知っていただきたいという思いから計画しました。

当初､定員30名で募集をしたところ､642名もの応募がありました。そこで、少しでも多くの方に参加いただくために定員を増やし、また、３回に分けて実施することにしました。

当日は、２歳から 75 歳までの方々が参加され、幅広い年代の方が関心を示されていることに驚きました。

まずは、救命救急センター伊藤岳医師が、救急医療について説明をしました。子どもさんにもわかりやすく、また軽妙な語りに、参加者は興味をもって聞き入っておられました。

また、フライトナースの松本みゆき看護師が、ドクターヘリや救命救急センターに関する様々なクイズを出題し、ドクターヘリやそれをとりまく環境についても、楽しみながら理解をしていただけたと思います。

おまちかねのドクターヘリの見学は、すぐ近くで見られるという希少な機会に、興味津々で機内をのぞき込んだり、多くの写真を撮ったりと、それぞれいろんな方法で楽しんでいただきました。

中には、医師や看護師を目指している方、操縦士になりたい子どもさんもおられたりで、スタッフに熱心に質問をされている姿が印象的でした。

この見学会のために、土井ひとみ看護師が、特技を活かして子どもさん用のフライトスーツを製作し、それを着た子どもさんたちが得意そうに写真を撮ってもらう姿も微笑ましく､和やかな雰囲気の中で「ドクターヘリ見学会」は無事終了となりました。

今回の見学会で、当院についての理解が少しは広がったのではないかと感じていますが、今後も地域に開かれた病院となるべく、いろんなことに挑戦していきたいと思います。

脊椎外科センター

脊椎外科センター長（部長(手術調整担当)兼整形外科部長） **高山博行**

このたび「脊椎外科センター」が新たに開設、運営されることとなりました。当院は、これまでも地域における脊椎外科診療の中核を担ってきましたが、さらに地域の皆様のご期待に応えるべく、先進的かつ安全確実な診療を目指してまいります。

新患は従来通り月、水、木曜日の整形外科初診１で受け付けております。脊髄腫瘍は脳神経外科と整形外科の共同手術としており、脳神経外科へご紹介いただいても結構です。慢性疾患につきましては厳密な保存的治療が無効の場合に手術を考慮いたしますが、急性期病院ですので入院での保存的治療は最小限とさせていただいております。一方、急速に脊髄神経麻痺の進行する急患などは、救急対応させていただき、緊急手術させていただくこともあります。遠方から救急搬送される脊椎脊髄損傷も多くありますが、合併損傷などがある場合は救急科や他科と連携して治療しております。

手術について

平成 21 年の当院開設から平成 29 年度末までの脊椎外科手術の総数は 2492 件であり、主なものとしては椎間板ヘルニア 500 件、脊柱管狭窄症 826 件、頚髄症 378 件、脊椎損傷 262 件、腫瘍 115 件などとなっております。手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しています。低侵襲の内視鏡手術を希望して来られる患者様も多く、昨年度までの内視鏡下手術は合計 263 件ありました。一方で、高齢人口の増加とともに、著しい脊柱変形や、多椎間の脊柱管狭窄症やすべり症等で広範囲の脊椎矯正固定術を要する症例も増えています。こういった手術は、侵襲が非常に大きく高齢者には困難な場合もありますが、最近は少しでも侵襲を小さくするために経皮的スクリューによる固定術 (MISt) や、以下に述べる側方進入椎体間固定術：Lateral Lumbar Interbody Fusion (LLIF) が普及してきています。

脊椎ナビゲーション手術

術中に 3D-CT が撮影できる C arm 装置とナビゲーションシステムを導入しています。これは頚椎椎弓根スクリュー挿入など難易度、危険度の高い手術を安全、確実に行うための手術機器です。頚椎損傷などで緊急手術が必要な症例でも、即時性と正確性の両方の利点があり、より早くより安全な手術が可能となります。

側方進入椎体間固定術 (LLIF)

高度の脊椎変形（後彎、側彎など）に対する広範囲の矯正固定術は、従来の後方アプローチでは侵襲が非常に大きくなるため、近年低侵襲の前側方アプローチによる椎体間固定 (LLIF) ＋後方からの経皮的スクリュー固定術が行われるようになってきました。脊椎の前側方には腸管や尿管、血管もあるため、当センターでは術前に血管造影 CT などで脈管の位置を充分に精査した上で、可能と判断した場合に限って神経モニタリングも併用しながら LLIF を行っております。

Baloon Kyphoplasty (BKP)

骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折も増加しており、充分な保存的治療でも除痛が得られない場合には BKP の適応となります。当院は BKP の認定施設であり、認定資格を持った医師も 4 名おります。

外来では、症状が安定すればフォローをお願いすることもございますが、なにとぞご協力をお願いいたします。今後とも「脊椎外科センター」をよろしくお願い申し上げます。

糖尿病・内分泌内科

生活習慣病センター次長兼糖尿病・内分泌内科部長　**飯田啓二**

当科の特徴

糖尿病・内分泌内科は、文字どおり糖尿病内科と内分泌内科両分野おいて専門医療を提供しております。独自の糖尿病教育プログラム、高度な内分泌診療、そして若手医師の育成が特徴です。

糖尿病診療について

糖尿病診療においてはチーム医療を実践しており、治療と教育を兼ねた「教育入院」を行っております。当院の入院糖尿病教室の特徴としては、生活習慣改善に重点を置き、通常の講義形式の授業だけでなく、糖尿病食バイキングやカンバセーションマップを用いた指導など患者さん主体型の形式を取り入れています。また専門医師による個々に応じた本格的な運動指導を実施し、病棟にエアロバイクを設置している点も大きな特徴です。退院後は、病状の安定している患者さんは地域の先生方へ逆紹介させていただき、1 型糖尿病などでコントロールが難しい患者さん、インスリンポンプを使用している患者さんなどは引き続き当科外来で加療を継続しています。今年度から腎臓内科の医師に糖尿病チームに加わっていただき、協力して腎症重症化予防に取り組むことにしています。

内分泌診療について

内分泌診療においては、当院は県内で数少ない日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会専門医施設です。扱う疾患は多岐にわたり、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵内分泌、副腎、性腺疾患と全身をカバーします。正しい診断、治療により劇的に症状が改善するのが内分泌疾患です。疑わしい症例がありましたらぜひご紹介ください。

若手医師の教育について

若手医師の教育にも力を入れており、当院の専攻医、初期研修医だけではなく最近では淡路医療センターなど他院からも熱意ある研修医が一定期間当院当科を選んで研修に来てくれています。若手医師たちが診療の中心になり、活気にあふれています。

■学会認定教育施設

- 日本内科学会認定制度教育病院
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本肥満学会認定肥満症専門病院

■糖尿病・内分泌内科担当医

飯田　啓二	糖尿病・内分泌内科部長	平成5年卒
日野　泰久	糖尿病・内分泌内科部長	平成5年卒
戎谷亜希子（非常勤）	兵庫県職員健康管理センター所長	平成9年卒
中村　幸子	総合内科兼糖尿病・内分泌内科医長	平成14年卒
清家　雅子	糖尿病・内分泌内科医員	平成24年卒
伊藤　　潤	糖尿病・内分泌内科医員	平成25年卒
立花真莉子	専攻医	平成26年卒
稲山由布子	専攻医	平成27年卒
樫谷　悠也	専攻医	平成28年卒

外科・消化器外科

外科部長　**高瀬至郎**

当科では、食道から肛門までの消化管、肝・胆・膵・脾など実質臓器も含めた消化器外科を中心に診察しています。消化器癌に関しては、手術前後の補助化学療法を始め、進行再発癌の化学療法の多くも当科が担当しています。また、消化器外科領域以外では、甲状腺、副甲状腺、各種ヘルニアなども対象に幅広い疾患を取り扱っています。

治療方針につきましては、先ず、生命予後を最も重視し、各疾患の治療ガイドラインに則った標準治療を基本としています。その上で、低侵襲な手術法や機能温存を考えた手術法など、新しい治療法も吟味の上、積極的に取り入れています。

手術法として、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた鏡視下手術を積極的に採用しており、進行胃癌や大腸癌の困難症例（穿孔、閉塞、浸潤、再手術など）を除けば、消化管と胆嚢手術や鼠径ヘルニア、瘢痕ヘルニア手術はほぼ全例、鏡視下で施行しています。現在では、肝臓や膵臓など実質臓器に対しても症例を選んで鏡視下手術を行えるようになりました。また、消化器内科の先生方とも協力し、腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）も導入しています。

スタッフは６人で、４人の消化器外科医に、救急科専門医と外科専攻医を加えた構成となっています。メンバーは、外科医として十分な経験と各々に専門領域、得意分野を有しており、チームワークも良好で、地域の中核病院として皆様のご期待に充分お応えできるものと存じます。

外来の体制としましては､手術日の木曜日以外は２名にて対応しています。柔軟な初診対応を心掛けるとともに、術後のサーベイランス、外来化学療法もできる限り担っていきたいと思っています。

地域医療機関の先生方へ

日頃より多くの患者様をご紹介いただき、ありがとうございます。一方で、外来患者様の待ち時間や手術までの待機日数などでご迷惑をおかけしておりました｡最近では毎週順次１～２例の待機患者を臨時枠で手術することや、入院サポートセンターなど外来検査体制の整備によって、手術待機日数は相当減少していると存じます。今後とも円滑な運営を心掛けてまいりますので、ご紹介よろしくお願いいたします。

スタッフ（平成 30 年 4 月 1 日現在）

高瀬　至郎（外科部長　平成元年卒）
日本外科学会専門医　日本消化器外科学会認定医
日本がん治療認定医　消化器がん外科治療認定医
近畿外科学会評議員　臨床研修指導医　緩和ケア研修会修了

衣笠　章一（外科部長　平成4年卒）
日本外科学会専門医･指導医　日本消化器外科学会専門医･指導医
日本がん治療認定医　消化器がん外科治療認定医
日本食道学会食道科認定医　検診マンモグラフィ読影医
臨床研修指導医　緩和ケア研修会修了
NST医師　近畿外科学会評議員

小林　巌（外科医長　平成10年卒）
日本外科学会専門医

門馬　浩行（外科医長　平成15年卒）
日本外科学会専門医　日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医　消化器がん外科治療認定医
日本乳癌学会認定医　検診マンモグラフィ読影医
緩和ケア研修会修了　臨床研修指導医　NST医師

川嶋　太郎（救急科医長･外科兼務　平成20年卒）
日本外科学会専門医　日本救急医学会専門医
緩和ケア研修会修了　日本DMAT隊員　NST医師

堀川　学（外科医員　平成26年卒）
緩和ケア研修会修了　JATECプロバイダー　NST医師

非常勤医師

堀　宏成（外科医長　平成10年卒）
日本外科学会専門医･指導医　日本消化器外科学会専門医･指導医
日本消化器病学会専門医　消化器がん外科治療認定医
日本消化管学会胃腸科専門医･指導医　緩和ケア研修会修了

平成 29 年度　手術症例数

症　例	全体	鏡視下
甲状腺･副甲状腺	10	0
食　道	3	3
胃･十二指腸	55	12
小　腸	19	4
大腸（直腸）	34	25
大腸（結腸）	59	35
虫　垂	19	18
肝　臓	13	8
胆道（良性）	91	87
胆道（悪性）	3	0
膵･脾･十二指腸乳頭	15	1
腹部その他	30	13
肛　門	7	0
ヘルニア	95	64
体表･その他	12	0

脳神経外科

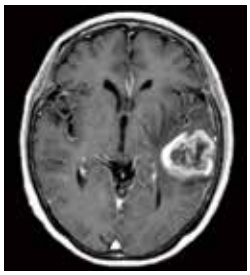
部長（医療情報担当）兼脳神経外科部長　**相原英夫**

ご挨拶

当地域の先生方におかれましては、患者さんのご紹介、また当科で治療後の逆紹介など、平素から大変にお世話になっています。脳神経外科領域の診断、治療は日々進歩しています。開頭手術以外に、血管内治療、神経内視鏡治療、定位放射線治療、また、てんかんやパーキンソン病への治療など多岐に細分化されつつあります。また、病態の解明や薬物治療の進歩から、手術適応もより厳密、重要になっています。当科では、最新の知見を取り入れながら、手術をしないという選択肢も含めて、頭痛、めまいなどに対する日常的診療から、高度専門医療まで、患者さん目線でかつ高度先進的な、洗練、成熟した治療を行うことで、すべての患者さんに最良の治療と満足を提供することを変わらぬ目標に努力しています。

対象疾患

- **脳血管障害：**
  - 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、動静脈奇形、もやもや病　など
- **脳、脊髄腫瘍**
  - 神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫、神経鞘腫、転移性脳腫瘍　など
- **機能的疾患：**
  - 三叉神経痛、顔面痙攣、てんかん、パーキンソン病、痙縮、振戦、ジストニア、疼痛　など
- **頭部外傷**
- **水頭症、先天奇形**

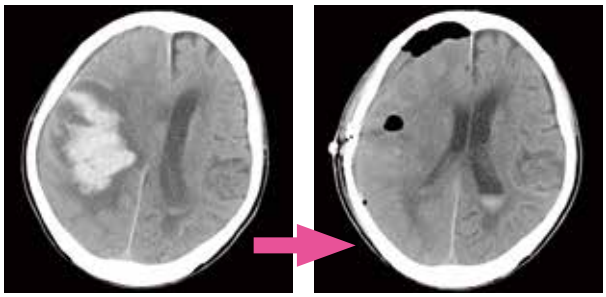

膠芽腫

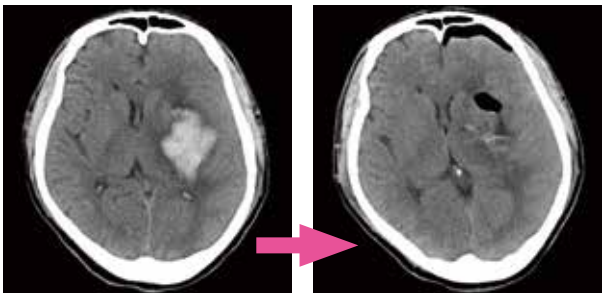
疼痛に対する脊髄刺激

当院脳神経外科の特徴：神経内視鏡治療

水頭症に対する脳室開窓や脳腫瘍の生検など、神経内視鏡による代表的な手術です。脳卒中では、脳内出血に対する内視鏡的血腫除去術が低侵襲治療として有用であり、当科では、最近では脳出血に対して開頭術を行うことは稀であり、血腫除去の適応となる大きな血腫でも、ほぼ全例、局所麻酔での内視鏡手術で良好な成績が得られています。

内視鏡手術前後


72歳　男性


64歳　男性

脳神経外科は予約なしでもいつでも診ます！！

脳神経外科は、外来診察時間以外でも、救急隊や他の医療機関からのご紹介患者さんには原則すべてに対応致します。また通常の外来へのご紹介については、地域医療連携部を通じての診察予約がない方、また当院が全く初診の患者さんでも、当日受診して頂ければ、即日で診察および検査まで致します。

要するに、脳の精査をと思われたら「今日でも明日でも医療センター脳神経外科へ行って診てもらって下さい」と手紙持たせて（持たせなくてもいいですし）頂ければ全然 OK、ということです。

お気軽にご相談、ご紹介頂けば有り難いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

放射線科

検査・放射線部長兼部長（緩和医療担当）・放射線科部長緩和ケア内科部長　**酒井英郎**

当科は現在、放射線診断常勤医２名と放射線治療常勤医１名、非常勤の放射線診断医１名、非常勤放射線治療医３名で放射線診療業務全般に取り組んでいます。

放射線診断では、80 列マルチスライス CT や 1.5 テスラ MR、３テスラ MR、核医学での SPECT 装置など最新の放射線機器が導入されています。

IVR（Interventional Radiology：放射線機器を用いた低侵襲治療）に関しては、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法で、従来の TACE を始めとして、薬剤溶出性ビーズによる最新の治療法も実施しております。そして門脈圧亢進症に対するカテーテル治療、化学療法や在宅療養のための CV ポート造設術も行っています。また下肢閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する経皮的血管形成術、ステント留置術や IVR-CT を使用した膿瘍などのドレナージ、腫瘍生検なども行っています。さらに救急救命センターと連携して外傷性出血に対する緊急の止血術にも、24 時間体制で対応しております。このように IVR 手技全般に幅広く対応しており、昨年度の IVR 件数は 340 例となりました。

核医学部門においては、骨シンチなどの通常検査に加えて、最近は高齢者に対する脳血流シンチやダットスキャンなどの頭部検査は 186 例などと検査件数が急激に増加してきており、核医学全体では 920 件でした。

放射線治療に関しても、姑息的照射だけではなく根治的放射線治療にも意欲的に取り組んでおり、県立粒子線医療センターや神戸低浸襲がん医療センターとも緊密に連携しております。乳腺外科や泌尿器科、脳神経外科など院内診療科からの依頼にとどまらず、県立がんセンターなどの近隣の中核医療機関や医師会の先生方からも多数のご紹介をいただいております。このため、昨年度の放射線治療患者数は 287 例と年々増加しています。以上のような外照射だけではなく、骨転移に対する Sr-89 の放射線内用療法や去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対する Ra-223 による放射線内用療法も実施しております。常勤の放射線治療医も在籍し、放射線科が直接治療ベッドを管理しておりますので、入院での放射線治療も柔軟に対応できるようになりました。必要に応じて、緩和ケア対応も行っております。平成 28 年３月に放射線治療器が最新鋭器リニアック装置に更新され、強度変調放射線治療（IMRT）などの先進的な治療にも対応しております。

● 地域医療機関の先生方へ

院外からの画像診断や IVR 全般だけではなく、疼痛などの症状緩和を含めた入院による放射線治療についても地域医療連携部を介して月～金で毎日対応しております。受診に至らないような相談的な内容でございましても、いつでもお気軽にお電話などでご連絡ください。

放射線治療を始めとして、下肢の閉塞性動脈硬化症や透析シャント不全に対する血管形成術、肝癌に対する動脈化学塞栓療法なども入院対応しておりますので、直接ご紹介頂ければ幸いです。

バリアン社製　リニアック装置

■スタッフ

常勤医：

酒井　英郎	部長（放射線治療専門医）
伊崎　健太	部長（放射線診断専門医）
木下　智恵子	医長（放射線診断専門医）

非常勤医：

久島　健之	（放射線治療専門医）
佐々木　良平	（放射線治療専門医）
石原　武明	（放射線治療専門医）
吉川　武	（放射線診断専門医）

栄養管理部

病院における栄養管理部門の役割は、入院されている全ての患者さんの栄養管理を適切に実施し、病状に適した食事を提供することにより疾患の早期治癒を図ることです。

また、入院・外来患者さんへ疾病の予防・回復のための栄養相談を行い、入院中のみならず、退院後の食生活においても継続して食事療法に取り組むことができるような指導に努めています。

さらに栄養サポートチーム、褥瘡チームなどのチーム医療に参画し、チームの一員として栄養改善に取り組んでいます。

■ 食事の提供

食事は、治療食の一環でもあるため、医師の指示に基づき患者さん個々の病状に合わせた栄養量、形態の食事を提供しています。

入院生活の中で食事を楽しみにしていただけるよう、行事食や季節メニューをとりいれるとともに、メッセージカードをお付けするなど、いろいろな工夫をしています。そのほか、焼きたてパンの提供やお誕生日を迎えられた患者さんにはケーキ等をプレゼントさせていただいております。

また、緩和ケア病棟でのティーサービスの実施や、化学療法食の提供、嚥下機能が低下した方のための食事の充実にも努めています。

■ 栄養相談

入院、外来患者さんとそのご家族の方に糖尿病食、腎臓病食、肝臓病食等について栄養指導を実施しています。また、当センター１階の「生活習慣病センター　学習ひろば」では、患者教室、生活習慣病に関するパンフレットの配布やＤＶＤ上映、栄養相談を行い、疾病の理解に役立てていただいております。

■ チーム医療への参画

患者さんの栄養状態について、医師、看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師・言語療法士がそれぞれの専門分野から意見を出し合い、最もふさわしい栄養管理を指導、提言することで、患者さまの回復を図ることを目的としたNST（栄養サポートチーム）でも積極的に活動しています。

県立加古川医療センター外来診療表

平成 30 年 6 月 1 日（金）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		渡部	大北	中村	立花	中村
消化器内科	1 診		垰本(さかもと)	【尹(ゆん)】	【担当医】	【尹(ゆん)】	垰本(さかもと)
	2 診		廣畑	岡田	廣畑(午前)	廣畑	戎谷(えびすたに)
	3 診		尹(ゆん)			白川	
循環器内科	1 診		福田(午前)	住本(午前)	岩田	片嶋	岩田
	2 診					【ペースメーカー】	
神経内科	1 診		木村	【森本】	渡部(午前) 【森本(午後)】	森本	木村
糖尿病・内分泌内科	1 診		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	2 診			【立花】			
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
生活習慣病			【肝炎】	【糖尿病・肥満】	【糖尿病・肥満】	【糖尿病・肥満】	
			【禁煙】 午後	【装具外来】 (隔週:毎月第2、4火午前)			
リウマチ科	1 診		田中	田中	田中	田中	担当医1
	2 診		塩澤	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3 診		村田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4 診		中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1 診	午前	加藤				
		午後		中尾		加藤(1,3,5週) 【北浦(2,4週)】	
外科	1 診		高瀬	衣笠	小林		高瀬
	2 診		堀川		門馬(もんま)		【衣笠】
心臓血管外科	1 診			西脇			西脇(午後)
脳神経外科	1 診		担当医	相原	森下	担当医	相原
	2 診			担当医	担当医		担当医
乳腺外科	1 診		石川	石川		石川	
	2 診		小林			小林	
整形外科	初診 1 診		原田	中川	高山	青木	中川
	初診 2 診		岸本		市村	西原	
	再診 1 診		【青木】	【上藤(午前)】	原田	【高山】	【担当医(午前)】
	骨粗鬆症	午後	【岸本】		【市村】		
形成外科	1 診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2 診		桒水流(くわずる)		桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)
	3 診		【仲宗根】		【谷口】	【仲宗根】	【谷口】
皮膚科	初診／予診		【八木田】	【濱岡】	【高井】	【八木田】	【中谷】
	1 診	午前	濱岡	足立	足立	井上	足立
		午後	【アレルギー】	担当医		担当医	
	2 診	午前	中谷	八木田	井上	中谷	濱岡
		午後	【アレルギー】				
泌尿器科	1 診		丸山	大場	田中	丸山	田中
	2 診			担当医			大場
眼科	1 診	午前		薄木	【薄木】	【薄木】	薄木
		午後	薄木			【コンタクト(隔週)】	
	2 診		徳川	徳川	徳川		
	3 診		【秋田(午前)】	秋田	秋田		
リハビリテーション科	スポーツ整形	午後	【柳田】		【柳田】		
放射線科	IVR		担当医		担当医		担当医
	治療初診		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	治療再診		【佐々木】		【石原】		【久島】

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
※【　】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。
※リハビリテーション科・スポーツ整形は、主にアスリートの方を対象とさせていただいています。

お願い 患者様の待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。